

PARTIAL TRANSLATION EXTRACT OF JAPANESE UNEXAMINED UTILITY
MODEL PUBLICATION (KOKAI) NO. 6-27601

Title of the Invention Device: Hinge Cap

Publication Date: April 12, 1994

Utility Model Application No.: 4-62146

Filing Date: September 3, 1992

Applicant: Mikasa Industrial Co. Ltd.

A hinge cap for a bottle is disclosed. A hinge cap comprises a body 3 to be attached to the bottle, a lid 9, and a hinge 8 connected to the body 3 and a lid 9. The body 3 and the lid 9 is formed from polyethylene resin, etc., and the hinge 8 can be formed from rubber, elastomer or metal (spring). The hinge 4 is connected to the container body 1 and the lid 3 by means of adhesion or welding.

Reference Numerals

- 3 body
- 8 hinge
- 9 lid

(11)實用新案出願公開番号

(43)公開日 平成6年(1994)4月12日

技術表示箇所

G 8208-3E

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 2 頁)

(74)代理人 弁理士 斎藤 侑 (外2名)

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂製の蓋体9を、ヒンジ8を介して設けた合成樹脂製の基体3；該基体3及び前記蓋体9の両方と材質を異にし、かつ弾性を有する弾性体である前記ヒンジ8；から成ることを特徴とするヒンジキャップ。

【請求項2】 ヒンジ8はゴムにより形成されている請求項1記載のヒンジキャップ。

【図面の簡単な説明】

2

【図1】 この考案の実施例を示し、ヒンジキャップの断面図であるである。

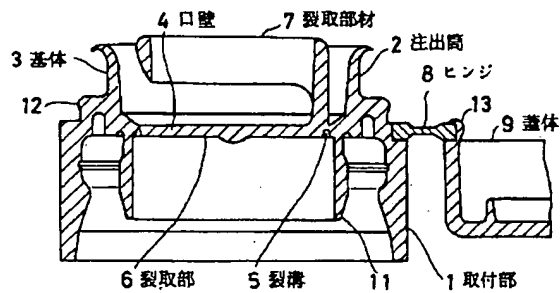
【図2】 同じくヒンジキャップの平面図である。

【図3】 従来の同種キャップの断面図である。

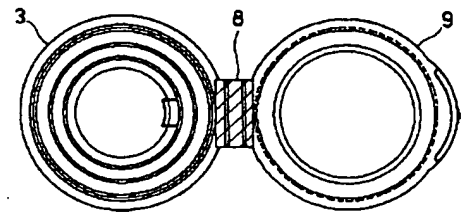
【符号の説明】

- 3 基体
- 8 ヒンジ
- 9 蓋体

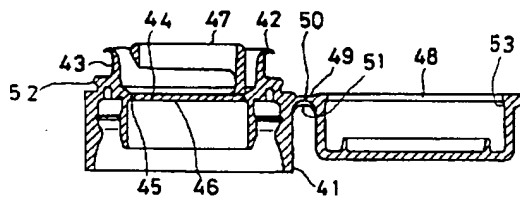
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は瓶等の容器に装着して用いるヒンジキャップに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来から図3に示すようなヒンジキャップが広く用いられている。

本考案は上記従来のヒンジキャップを改良するものであるため、まずこの従来のヒンジキャップを説明する。

【0003】

同図において41は合成樹脂製の、瓶等に取り付ける取付部であり、42は取付部41に設けられた注出筒であり、43はこうして形成された本体を示す。そしてこの本体43の内側に口壁44が一体に形成されている。45は裂溝、46は裂取部であり、47は同裂取部46上に設けられた裂取部材である。そして48は前記本体43にヒンジ49を介して一体に設けられた蓋体、50は折り曲げ部、51は第二ヒンジである。

【0004】

そしてヒンジ49、第二ヒンジ51の両方により開放の際の姿勢維持即ち注出時のたれ下がりによるかぶさを防止する機構となっている。又図3において52、53はそれぞれ係合部及び係止部であり、蓋体48を閉止した際に固く係止するようになっている。

【0005】

そしてこのように形成されたこのヒンジキャップは、開放の際に前記裂取部材47を上方に引っ張り、前記裂溝45を裂切るため、裂切り易い合成樹脂、例えばポリエチレンにより形成される。そして上記従来のキャップは最初の開放迄は容器を密閉できるため広く用いられている。

【0006】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、上記従来のヒンジキャップは一方次のような難点を有している。それ

は前記裂溝45を裂切り易いように、引き裂き強度の小さい合成樹脂、例えばポリエチレンにより形成されるが、そうすると前記ヒンジ49が、その折り曲げ部50等から折り曲げる場合、同部50において切れてしまう恐れを有する。

【0007】

又前記蓋体48は閉止の際に本体43上にかぶせられ、かつその係止部53が前記本体43の係合部52に強く係止するため所定の硬さを要求される。

即ち前記ヒンジ49は、本体43及び蓋体48の両方から矛盾した性能を要求される場合がある。

【0008】

この考案はこのような課題を解決するためになされたもので、その目的は前記本体3及び蓋体9に任意の機能を持たせても、それらに影響されることなく機能を発揮できるヒンジを有する、ヒンジキャップを提供することである。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達するこの考案について述べるとそれは、合成樹脂製の蓋体9を、ヒンジ8を介して設けた合成樹脂製の基体3；該基体3及び前記蓋体9の両方と材質を異にし、かつ弾性を有する弾性体である前記ヒンジ8；から成ることを特徴とするヒンジキャップである。

又上記ヒンジ9はゴムにより形成されている上記ヒンジキャップである。

【0010】

【作用】

このヒンジキャップは前記のように構成され、ヒンジ8は基体3及び蓋体9の両方と異なる材質で、かつ弾性を有する弾性体で形成されたことにより、基体3に、一例として前記従来例に示すように裂溝等を形成して裂切り易い材質を用いても、又一例として蓋体9に本体3と固く係合する比較的固い係止部を形成しても、それらの機能を十分に働かせることができる。しかもヒンジ8は曲げ耐性が強く多数回の弾力性の屈曲に対して良好に作動し、容易に切れてしまうことがない。

【0011】

【実施例】

図1において1は合成樹脂、一例としてポリエチレンにより形成された取付部であり、一例として図示しない瓶口に装着するように形成されている。2は注出筒であり、取付部1の上部に一体に設けられ、この両者1、2により基体3が形成されている。4は基体3内側に一体的に形成された口壁であり、同口壁4に無端状の裂溝5が形成され、これによりその内側に裂取部6が構成されている。

【0012】

7はプルリング状の裂取部材である。そして前記基体3に、ヒンジ8を介して蓋体9が設けられている。ヒンジ8はゴム、エラストマー又はばね状に形成した金属等により形成される。又蓋体9は一例としてポリエチレンにより形成され、前記ヒンジ8はこの蓋体9及び基体3にそれぞれインサート成型により一体的に形成されている。なおこのヒンジ8は接着又は融着により設けられていてもよい。又ヒンジ8が金属により形成される場合は板ばね又は弦巻きばね等が用いられ、それらの両端がそれぞれインサート成型される。なお板ばねを用いる場合は中央部が薄くかつ巾狭に形成される。

【0013】

又11は内筒、12は係合部、13は係止部である。
そして上記ヒンジ8はゴムその他の弾性体により形成されたことにより、蓋体9を開放した場合、容器を傾けて内容を注出する際に、その開放位置にとどまっておき、たれ下がってかぶさらないようになっている。

【0014】

なおこの実施例において前記基体3はポリエチレンにより形成され、その口壁4に裂溝5を有する形式のものとして説明されたが、これは一例であり、これに限るものではなく、合成樹脂製の蓋体9を、ヒンジ8を介して設けるものであれば差支えなく、このようなものを全て含むものである。即ち実施例のような中蓋状のものでもよく、その他容器等であっても差支えない。そして又この部分は上記のようなかぶさり防止機構となっていなくても差支えはない。

【0015】

又前記蓋体9はポリエチレンによって、他の実施例としてポリプロピレンによ

って、即ち二通りに形成された。これらは十分な硬度を持ち、前記係合部12に、係止部13によって硬く、多数回の開閉を行ってもゆるむことなく係止させることができた。

【0016】

この実施例の作用については、この実施例がその最初の使用に当たって前記裂取部材7を用いて前記裂溝5を裂切りそこに開口を形成して使用する外は、殆ど前記の、この考案の作用と同様のため省略する。

【0017】

【考案の効果】

このヒンジキャップは前記のように構成され、ヒンジ8は基体3及び蓋体9の両方と異なる材質で、かつ弾性を有する弾性体に形成されたことにより、基体3に一例として、前記従来例に示すように裂溝等を形成して裂切り易い材質を用いても、又一例として蓋体9に、本体3と固く係合する比較的固い係止部を形成しても、それらの機能を十分に働かせることができる。

しかもヒンジ8は曲げ耐性が強く、多数回の弾力性屈曲に対して良好に作動し容易に切れてしまうことがない。